

平成29年度第1回過疎問題懇談会 議事概要

(開催要領)

1. 開催日時：平成29年7月18日(火) 13:00～15:00
2. 場所：中央合同庁舎4号館1階108会議室
3. 出席者
 - ・座長：宮口 侗迪 早稲田大学名誉教授
 - ・委員：青山 彰久 読売新聞東京本社編集委員
 - 太田 昇 岡山県真庭市長
 - 小田切 徳美 明治大学農学部教授
 - 梶井 英治 茨城県西部メディカルセンター病院長
 - 川口 幹子 一般社団法人MIT 専務理事・主任研究員
 - 作野 広和 島根大学教育学部教授
 - 佐藤 宣子 九州大学大学院農学研究院教授
 - 高橋 由和 NPO法人きらりよしじまネットワーク事務局長
 - 谷 一之 北海道 下川町長
 - 沼尾 波子 東洋大学国際学部国際地域学科教授

(議事次第)

1. 開会
2. 議事
 - (1) 平成29年度の過疎問題懇談会について
 - (2) 地方創生をめぐる現状と課題
(内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局)
 - (3) 過疎対策の現状と課題 (総務省)
3. 閉会

(資料)

- ・資料1：平成29年度過疎問題懇談会開催要領
- ・資料2：過疎問題懇談会の進め方(案)
- ・資料3：地方創生をめぐる現状と課題
(内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局)
- ・資料4：過疎対策の現状と課題
(総務省地域力創造グループ過疎対策室)

(議事概要)

【議題1 平成29年度の過疎問題懇談会について】

○主な意見等

- ・国土交通省からは地域公共交通の課題に加えて、貨客混載の取組についてヒアリングすべきである。
- ・総務省からは広域連携についてヒアリングをすべきである。今後の過疎対策を検討する上では、都市と農山村の連携のあり方がテーマとなる。
- ・文部科学省からは、公民館活動のあり方についてヒアリングをすべきである。公民館などの社会教育施設の活動が地域にとって重要である。
- ・農林水産省からは、過疎地域における農村政策についてヒアリングをすべきである。
- ・日本の財政状況が厳しい中で、経済効率性が低い地域への財政資金の配分を見直すべきという意見もあるかと思うが、そのような意見に対しての考え方を整理する必要がある。
- ・日本全体で少子高齢化が進む中における、都市と農村の共生のあり方をしっかりと考えていく必要がある。

【議題2 (地方創生をめぐる現状と課題) 及び議題3 (過疎対策の現状と課題)】

○主な意見等

- ・過疎地域の平均所得の向上だけでは人を戻すことは難しいのではないかと。都市と過疎地域との関係についての国民共通の価値観を変えていく必要があるのではないかと。
- ・「豊かさとは何か」ということを考えていく必要がある。都市と過疎地域がそれぞれ本当の意味で豊かになるために何をすべきかという発想が必要である。都市にはない農村の素晴らしさ、経済的な問題ではない価値観というのがあるのではないかと。
- ・地方と何らかの関わりを持つ「関係人口」が増えてきており、この「関係人口」についても議論していくべきではないかと。
- ・地域コミュニティのあり方を考えた場合、人口が減少するのはやむを得ない中で、地域づくりを支える「人材」となり得る人をいかに増やすかということが課題になってくるのではないかと。地域づくりを支える「人材」を育成するに当たっては、住民の当事者意識づくり、言い換えれば、地域のことを「自分事化する」ことがポイントである。具体的な手法として、ワークショップが重要になってくる。
- ・地域の人がお互いに関心をもって地域のことに参加してもらうことが大切。そうすることによってソーシャルキャピタルができることにつながる。

- ・コミュニティも人口減少で担い手が減少しており、地域の外とどうつながりをつくるかが重要になっている。
- ・地域コミュニティの将来像を描く上で、住民レベルで、データを解析し、将来を見通す力を育成していく必要がある。
- ・産業面について言えば、大量生産、大量消費ではなく、小ロットだけでも高付加価値を生むような取組が重要になるのではないかな。
- ・今では仕事観が変わってきていて、例えば、地域に来て林業をしながら別の仕事をしている人もいる。兼業を組み合わせた仕事づくりが大切である。若い人はそうした暮らしを求めているのではないかな。
- ・IoTの活用などが言われているが、維持管理を地域の外に委託するのではなく、産業技術のネットワークを過疎地域にも伸ばすことが大切である。
- ・複数の過疎市町村で連携して事業を行っている例が増えてきている。このような取組をどのように拡大していくかを考えていく必要がある。
- ・医療の分野においても広域的に資源を共有化していくということが進められており、他の分野も含めて積極的に検討していく必要がある。
- ・地方で小さい仕事を始めようと思ったときに、いろいろな規制やルールが、都市部で大規模に事業を行うことを想定とした内容になっていて、地方で取り組む場合に適していないように感じる。そうした規制の洗い出しの作業も必要ではないかな。

以上